

# 観光農園もぎたて倶楽部

丹原もぎたて倶楽部 Saiki Engei 代表 佐伯 祐介 (西条市)



もぎたてキッチンカー



もぎたてキッチンのメニュー

## ◆丹原もぎたて倶楽部とは？

観光農園を主体とした農家コミュニティ。それが丹原もぎたて倶楽部です。現在の構成農家は、親の世代と若い世代の入り混じった2世代で構成されています。若い発想を取り入れながら、知識と経験が豊富な世代と合わることによって今までなかった発想が生まれています。農家が集まることで、一農家ではできない事が可能になり、自分たちの生活、地域や社会が良くなるための活動へと繋がっています。

また各農家が、いろいろな作物を育て、栽培し、お客様と関わりを持って経営しています。多いのがブドウ、柿ですが、苺、キウイフルーツ、みかん、イチジク、ブルーベリー、すもも、栗、バラや多肉植物などもあり、多種多様な体験プランを考えています。農業のありのままを体験し、自然に一番近い営みを通じ、お客様の日常のストレスの癒しや高揚につながる事が各農家の喜びと生き甲斐になっています。

## ◆丹原もぎたて倶楽部ヒストリー

そもそも、丹原もぎたて倶楽部は、10年前に観光農園を開いていた8軒の農家が集まってできました。観光農園では、各農園ごとにお客様がついており、シーズンになると1軒ではまかなえなくなることもしばしば。せっかくなかなくもしいことに、そこで、近くの農園にお客さんを紹介し始めました。1軒の農家でできないこと「をお互いが補い、協力しプラスにつなげる。それが、自分達の為になり、お客様の喜

びになり、ひいては丹原地域の活性化につながっていく。その発想が起源であり、私もその思いに共感した者の1人です。

## ◆会社設立

丹原もぎたて倶楽部の若い有志メンバーが中心となり、農家や賛同者をオーナーとして2012年4月に株式会社DENIA FARMを設立しました。各農家ではできなかった加工や商品開発、新たな販路拡大、人手の確保など、農家をサポートすることで利益が生まれ、雇用創出にもつながる。農家や地域が喜ぶ会社を創造したいと設立にいたしました。

まず、1年目は「もぎたてキッチン」という移動販売車を購入し、かねてより構想のあったかき氷やスムージーの製造、販売を行ってきました。現在では、地元農協直売所「周ちゃん広場」で店舗を運営させていただく運びとなり、商品開発した食べ物は大好评です。

また、もぎたて倶楽部内外の農家から、野菜や果物、他作物を仕入れ、地産地消マッチングにつなげる営業もしています。例えば、病院、学校給食、地域の飲食店などに農家の旬の野菜情報を伝えることで、栄養満点のいい食材を効率的に提供できるという取り組みです。まだまだこれからですが、確実にニーズはあり、今後私たちが生きる上で、必要な事だと考えています。

それから、耕作放棄地を借りて果樹を植えたり、柿園を管理したりとできることからコツコツと試行錯誤しています。もつともつと農家のサポートと新しい仕



ザリガニ釣り

もぎたて祭



事の創出につなげたい。そうすることで高齢者の農家も喜び、若者にも農業の面白さを伝え、地域に必要な会社になっていく。その思いから、私たちは日々精進しています。

◆もぎたて祭 春、夏

観光農園の果物がおいしい時期に、お客さんや地域の人と美味しさ、楽しさ、美しさを分かち合いたい。そんな思いで始まったもぎたて祭。夏はブドウ狩りを、春は苺狩りをメインに年に2回のペースで開催しています。春、夏によってスタイルは変わりますが、餅つき体験、種飛ばし大会、観光農園クイズ、ザリガニ釣り、農機具展示体験コーナー、就農セミナー、農家のフアッシュョンショー等々、どこにもないオリジナリティが満載です。

また、農園だけに留まらず、地域のお店やもぎたてキッチン、有志の歌やフラダンス、ダンススクールの子供たち、丹原高校、西条農業高校の生徒たちにも、出店参加協力をお願いしています。地域が一つとなり、楽しめる。世界中どこにもないおもてなしを、もぎたて祭で提供し続けたいですね。

◆震災があつたあの時

東日本大震災があつた時に、私達ももぎたて倶楽部として何かできないかと相談しました。直ぐに思いついたのは、農作物を送ること。しかし、どこに送ればよいか分かりません。仕方がないので、農作物を売って全額を義援金として送る事を考えました。ちょうどそのタイミングで、丹原高校で毎

年春に行っている野菜苗販売のイベントがあり、事情を説明すると、快くブースを提供して頂きました。初年度は、10万円近くの金額となり、市を通じて被災地へ送りました。「この活動は、続けることに意味がある。被災者の支援はできるだけ長く続けたい。」そういう意見が多かったので、もぎたて倶楽部では、毎年丹原高校と協力して、農作物販売での売上全額を義援金として送っています。

また冬には、丹原で有名な干し柿の愛宕柿を毎年被災地に送り、干し柿を避難所生活の人たちに作ってもらっています。毎年美味しくできるそうで、喜んでもらえていることが何より嬉しいです。自然に支えあう。それが人間の自然な姿だと私は感じています。

◆今後の丹原もぎたて倶楽部

我々は、百姓の集まりから始まりました。何ができるか分かりません。でも、集まることで生まれました。喜ぶ顔、楽しむ人、生きる希望と幸せ、そしてこのコミュニティが。世代を超えて、立場を超えて、このもぎたて倶楽部は広がり続けています。今後どこに向かうか、どう進化するか、とても楽しみます。

そして私は、関わるすべての人に感謝を伝えたい。もぎたて倶楽部を作ってくれて、支えてくれて、ありがとうございます。これからも食べること、感じることに、生きることを共に楽しみましょう。皆さん、未永く、よろしくお願ひします。